

## News Release

「農作業安全研修実施強化期間」に合わせ、JA共済が“効率重視の現代を生きる若者の農業に対する意識”を調査  
**20代の5割以上が「タイパ疲れ」を実感、あえて手間をかけることや自給自足の生活に憧れ**  
**タイパ疲れの20代6割、20代全体でも5割以上が「将来農業をやってみたい」**  
**農業志向の20代5割以上が、今後の就農に備えて準備を始めており、**  
**「農作業でのケガや事故を防ぐためのプログラムを体験したい」と約8割が回答**

JA共済連（全国共済農業協同組合連合会・代表理事理事長 村山 美彦）は、「農作業安全研修実施強化期間」（12/1～2/28）に合わせ、全国の20代男女を対象に農業に対する意識と実態について調査を行いました。JA共済連では農業の新たな担い手に向けた支援をはじめ、さまざまな農業振興活動に取り組んでいることから、次の社会を担う20代にフォーカスし、“効率重視の現代を生きる若者と農業に対する意識”を探りました。その結果、20代の半数が効率を重視し過ぎて疲弊してしまう「タイパ\*疲れ」を感じている一方で、手間をかけることや自給自足の生活に憧れていることが分かりました。さらに、タイパ疲れを感じている20代の6割が「将来農業をやってみたい」と農業への関心が高いことも分かりました。

主な調査結果は以下の通りです。

\*タイパ：「タイムパフォーマンス」の略。短時間で最大の利益（効果）を得ることに着目した概念

## タイパ重視の時代、20代の半数以上がタイパ疲れを実感し、そのうちの6割は農業に高い関心

20代男女10,000人の75.6%が「効率性は重要」、74.3%が「タイパは重要」と回答。一方で**56.1%が「タイパ疲れ」を実感**。

タイパ疲れを感じる20代は、あえて手間をかけたり自給自足をしたり、自然の中で働くことや地方移住への関心が高い。

**将来、農業をやってみたい20代は52.1%。タイパ疲れを感じる20代では60.2%と、農業への関心が一層高い。**

## 農業をやってみたい20代にとって、農業は自然や自分に向き合え、全てのプロセスに関与できる仕事

農業志向の20代（700人）にとって、農業は「自然と向き合える」、「自分と向き合える」、「成果や過程が目に見える」魅力的な働き方。

農業をやってみたい大学生（200人）のうち約7割（67.5%）が将来就きたい職業を見据えてキャリアを選択。卒業後、社会人としての経験を積み、農業以外の職業につき、安定した収入を得たうえで、就農を考えている。

## 20代の理想の就農スタイルは、人や社会とつながる持続可能な半農半X型

就農したい適齢期は「40代まで」が41.5%、リタイア後ではなく現役のうちに就農を希望。やってみたい農業スタイルは、農業と自分のやりたいことを両立する半農半X的な働き方で、家族や仲間、地域社会と連携した持続可能な社会性のある複業型農業。

## 将来の就農に向け半数以上が準備を始め、8割が農作業中の事故を防ぐプログラム体験を希望

農業志向の20代の56.0%が農業を始めるために何らかの「準備をしている」。「農家経営」「栽培方法」「起業のための補助制度」について学びたいと考え、約8割（78.9%）が「農作業でのケガや事故を防ぐためのプログラムを体験したい」と回答。

### 「20代の農業に関する意識と実態調査」調査概要

●実施時期：2024年11月1日（金）～11月4日（月） ●調査方法：インターネット調査 ●調査対象：調査①全国の20代男女10,000人 調査②将来農業をやってみたい20代男女700人 ●調査委託先：電通マクロミルインサイト ※本調査に記載の数値は小数第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合や表記した数字の合算した値と異なる場合があります。

### 農業キャリアコンサルタント・深瀬貴範さんからのアドバイス

自分らしく働きたいと思う若い世代にとって農業が魅力的な選択肢として注目されています。農業は作物を栽培し消費者に提供する仕事で、自分の介在価値を感じやすく、「おいしかったです」と言ってもらう事で若い世代の求める承認欲求も満たされます。最近では農業法人に就職という農業の始め方も増えてきました。

## 「20代の農業に関する意識と実態調査」サマリー

JA共済連では新たな農業の担い手に向けた支援をはじめ、さまざまな農業振興活動に取り組んでいることから、次世代を担う20代男女10,000人を対象に調査を行いました。現代社会は「タイパ」が重視されており、20代の74.3%が「タイパは重要」と思っています。一方で56.1%が「タイパ疲れ」を感じています。タイパ疲れを自覚する20代は、あえて手間をかけることや、自給自足の生活に憧れ、地方移住して自然の中で働きたいという意識が高く、「将来農業をやりたい」と答えた人も60.2%となっています。

また、将来農業をやりたい20代男女700人に農業の魅力を聞くと、「自然と向き合える」「自分と向き合える」「成果や過程が目に見える」が上位に挙げられました。また、将来農業をやりたい大学生の67.5%が「将来就きたい職業を見据えて、ファーストキャリア・セカンドキャリアを選んでいる」と答え、彼らの93.5%がまずは社会人としての経験を積み、安定した収入を得た上で、ネクスト・キャリアとしての就農を考えています。就農したい年齢は「40代までに」が多く、現役世代で農業人生をスタートさせ、自分のやりたいことと両立する半農半Xで持続可能な社会性のある農業を目指しています。将来の農業に備えて準備を始めている人は56.0%と半数を超え、今後、「農家経営」「栽培方法」「起業のための補助制度」について学びたいと意欲的です。また、78.9%と約8割が農作業でのケガや事故を防ぐプログラムを体験したいと答えています。

## 農業キャリアコンサルタント深瀬貴範さん、「就農を考える若い皆さんへ」

### ■ 農業に本気で向き合う20代 農業は自分の介在価値を確認できる仕事

私は農業キャリアコンサルタントとして農業人材の確保にも携わっていますが、最近では仕事として農業に向き合う若者が増えています。農業求人サイトの新卒向けのイベントでも参加する学生が増え、就農や農業への向き合い方の本気度を感じます。

若い世代に農業が人気の理由の一つが、農業が自分の介在価値を確認できる仕事だからです。自分が関わった仕事を褒められるとすごくうれしいと思うのですが、農業は作った野菜を「美味しい」と言ってもらえるなど、介在価値をじかに感じられます。そういった意味で、いわゆる“タイパ疲れ”を感じている若い世代の選択肢の一つとして、あえて手間をかけたり自然の中で働き、介在価値を確認できる農業に注目が集まっているのかもしれませんが、また、以前は農業がどんな仕事かよく分からない人もいたと思うのですが、今はネットでいろいろ調べられるので、自分の仕事の候補として考えられるようになってきました。若い人たちに仕事としての農業の情報が入りやすくなり、農業が身近になってきたことも就農人気の要因だと思います。

### ■ ネクスト・キャリアとしての農業 始めやすく続けやすい選択を

働き方改革やコロナ禍で、私たちの仕事に対する価値観は大きく変わりました。仕事をする中で、自然の中で過ごしたい、自分のペースで働きたいという自己実現を目指し、ネクスト・キャリアとして就農するケースも増えています。また、副業・兼業、転職が当たり前になり、キャリアチェンジしやすい社会の環境もネクスト・キャリアとしての農業選択の後押しになっているのかもしれませんが、今は、初心者でも農業を始めやすい制度や環境があります。ネクスト・キャリアとして農業に携わるのであれば、まずは農業法人で知識や技術を吸収し、その後独立するのもオススメです。いきなり新規就農するより、始めやすいし、続けやすいのではないのでしょうか。

### ■ 農作業事故につながる「無意識」「無理」「無茶」の3M 効果が高いVR体験で事前のリスク回避を

とはいえ、農業は自然を相手にしており、決して容易な仕事ではありません。お金と経営計画はしっかり準備しておきましょう。また、農作業事故に備えて、「農作業事故体験VR」を経験しておくのもオススメです。農作業事故を疑似体験できるのでテキストでの知識よりぐっとリアルで、その危険性を認識することができます。農作業事故の原因は「無意識」「無理」「無茶」の3Mです。天気を気にしない無意識、ここまでやっておこうという無理をする、危険なのに面倒だからと無茶してしまう、誰にでもありがちな3Mが大きな事故を引き起こします。「農作業事故体験VR」で危険性を強く意識することも、就農への第一歩です。

## ■ 持続可能な農業のために「農作業事故体験VR」を活用した学習プログラムを提供

農作業事故の年間発生件数は、JA共済連の推計で約6.4万件に上ると予測されます。農林水産省が発表した令和4年の農作業事故死亡者数は238人※1と減少傾向にはあるものの、就業者10万人当たりの死亡事故者数は11.1人※2であり、他産業に比べ依然として高い状態です。農作業にはさまざまな危険が潜んでいます。

出典：※1 <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/attach/pdf/240222-1.pdf> ※2 <https://www.maff.go.jp/j/press/nousan/sizai/attach/pdf/240222-2.pdf>

そこでJA共済では、当事者の視点から農作業の事故を疑似体験できるVR映像コンテンツ「農作業事故体験VR」を開発。全国のJAにおける研修会やイベント、農業関連団体による講習会などで、VR動画を活用した学習プログラムを展開し、農作業事故を「自分ごと化」していただき、安全対策の重要性を伝えています。JA共済は、農作業事故を防止して持続可能な農業を目指しています。詳しくは▶ <https://social.ja-kyosai.or.jp/activity/culture/vr/>



### 学習コンテンツ（2D映像）

農業の安全性について考えていただくため、農作業事故件数やその要因などを映像でご紹介します。



### 農作業事故体験VRコンテンツ（3D映像）

乗用型トラクターの転倒、耕うん機の後進作業、コンバインの巻き込まれなど、重大事故につながりやすい農業機械の事故をVR映像でご紹介します。

※発育期の目への負担に配慮し、対象年齢を14歳以上としています。

